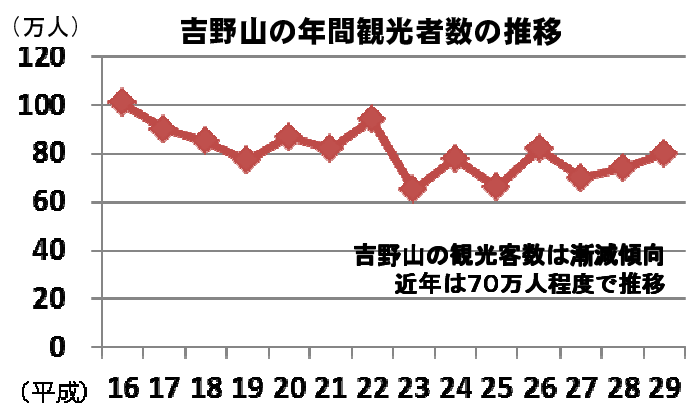


現状と課題

- 観光客の多くが観桜期に集中し、一般車両や観光バスにより周辺道路で慢性的な渋滞が発生。まちなかや奥千本にまで一般車両が進入し、観光客や地域住民の安全性が低下。一方、観桜期以外の観光客が少なく、年間の観光客数は減少傾向にある。
- 吉野山は、桜だけでなく、世界遺産に登録された国宝「金峯山寺蔵王堂」等多くの歴史文化資源を有しており、インバウンドを積極的に取り込む通年型観光への転換が必要。そのため、下千本から奥千本にかけて、約50haの広大なエリアに分布する四季折々の自然景観資源や歴史文化資源を周遊できる、新たな観光周遊システムの構築・推進が必要。



観桜期の混雑状況(安全確保が課題)



奈良県・吉野町の取組

新たな「吉野山観光周遊システム」の検討・住民意見の集約

事業主体：吉野町(県：まちづくり連携協定に基づく技術・財政支援)

※地域住民主体の吉野山観光周遊システム検討委員会にて議論

＜基本方針＞ ゆったりとした時間の中で、吉野山の「風」を感じる、
環境にやさしい周遊システムの構築

○スローでクリーン、吉野山を体感する移動手段への転換

索道(観光リフト)や電気バス等の導入

通年での一般車両進入規制の検討(段階的な実施、関係車両を除く)

○地区内の移動手段の強化

まちなかの周遊強化、奥千本への連絡強化

地元の熱意

○吉野山地元三団体による要望(平成30年8月6日)

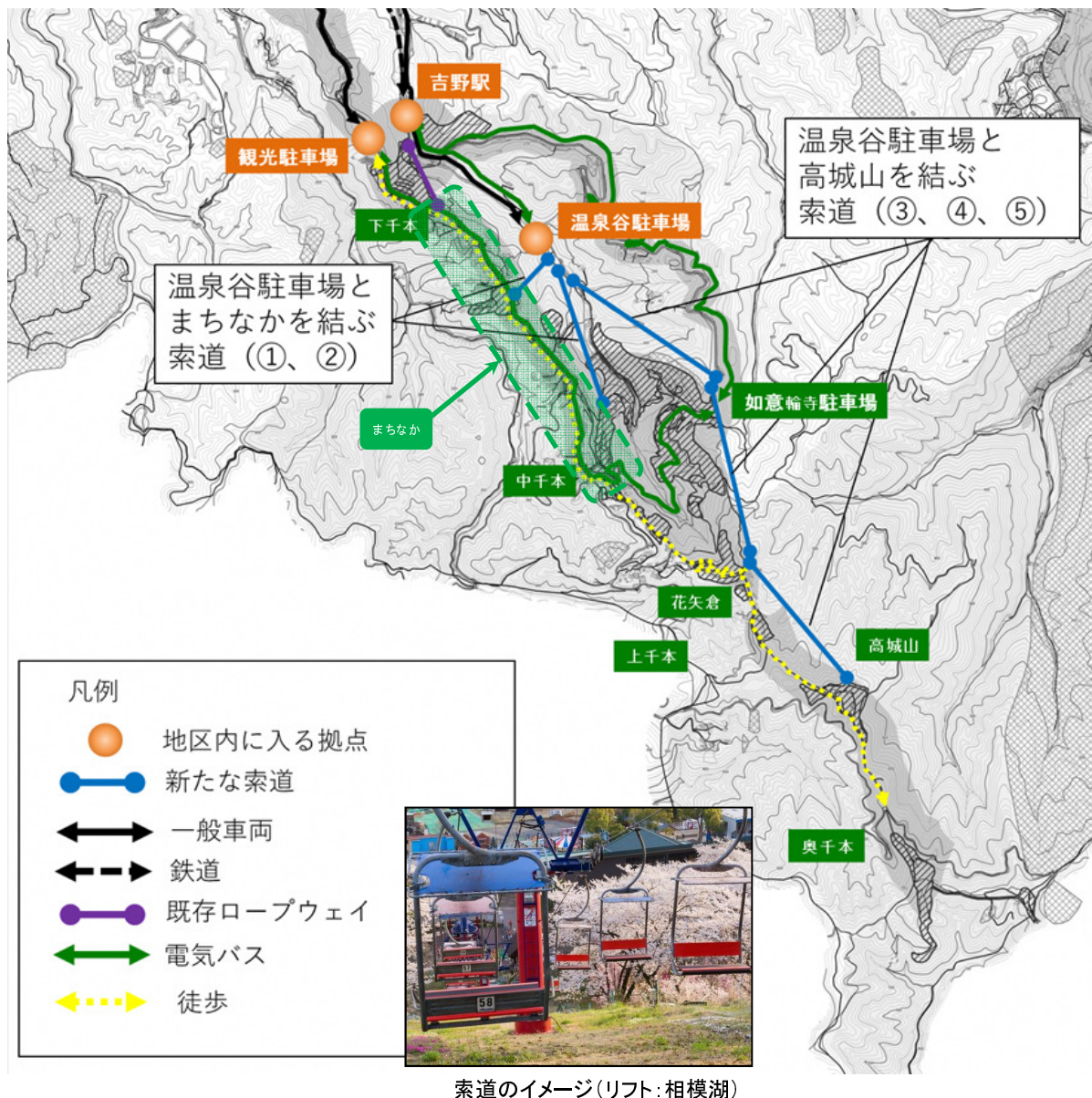
○吉野町議会推進決議(平成30年9月14日)

○吉野山観光周遊システム検討会(平成31年1月24日設置)＜計5回開催＞

国にお願いすること

新たな索道(観光リフト)整備(事業主体:吉野町)の早期事業化に向けて、公園計画を変更(自然公園法第8条)し、公園事業として決定(同第9条)されるよう、特段の配慮をお願いする。

◆新たな索道(観光リフト)整備計画(案)



【県担当部局】景観・環境局 景観・自然環境課
まちづくり推進局 地域デザイン推進課
【吉野町担当部局】総合政策課、文化観光交流課